

スペシャル卓球教室

(担当：子ども未来部 子ども育成課 ゆたか児童センター)

事業の背景・目的

品川区の児童センターでは、バスケット、トランポリン、スラックライン、ボルダリング、インラインスケートなど様々なスポーツに取り組み、児童・生徒の体力増進を図っています。中でも、卓球はどの世代にも人気があり、25 館全館に卓球台を配備し、いつでも楽しめるようにしています。また、毎年3月には合同行事「ふれあい卓球大会」を開催しており、30年以上続く恒例の事業となっています。

東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、世界レベルの卓球に接し子どもたちに夢と希望を与えていきたいと考え、2学期に区内の13か所の児童センターで元オリンピック選手を講師にむかえ「スペシャル卓球教室」を開催することにしました。そして、年度末の「ふれあい卓球大会」で練習の成果を発揮し、他館の参加者とも交流を図るという形態にし、継続性をもたせました。

「スペシャル卓球教室」では、子どもたちが講師から直接指導を受けることで、技術の向上を図るとともに、オリンピックにまつわる講話を聞くことで、頑張る姿勢やスポーツの楽しさと厳しさを体験することを目的としました。

事業の概要

- 実施場所 区内13か所の児童センターもしくは近隣小学校体育館
実施時間 令和2年9月～12月の土曜日 午後2時～5時
講師 品川区にゆかりのある元オリンピック卓球選手1名
運営方法 職員代表4名による事務局を設置し、卓球教室の実施方法等を決定
13館長館と12分館が事業連携して運営
内容 基本動作指導 選手との1対1指導
苦手プレイやスマッシュなどの個別指導
オリンピック講話



工夫点・留意点

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みながら9月～12月の間に実施する計画を立て、事務局で「実施のためのガイドライン」を作成し、感染予防対策を講じました。卓球台1台につき4人までの参加者とする、2部制にして1部屋にいる人数を制限する、換気や用具消毒の仕方など感染対策は全館で統一し、各児童センターは対策を遵守して教室を実施しました。
- ・事務局は講師依頼、日程調整などを担うのみとし、教室への参加募集方法や具体的進行方法については、各館で計画するよう裁量を持たせました。各館が地域ごとの特性に合わせて、自主的に卓球教室を運営することで、普段の子どもたちのニーズやレベル、本事業を通して育てていきたい視点などをきめ細やかに取り入れることができました。

事業の効果

- ・延べ参加者は小学生167名、中学生32名、高校生7名、合計206名でした。講師より、フットワークの基本動作などを指導してもらうことで、参加者本人もびっくりするほど短時間でレベルが上がり、大きな喜びと自信に繋がりました。
- ・オリンピック講話では、講師のオリンピック出場に向けての体験談、努力することや感謝することの大切さ、世界中に友だちができたことなど、世界で活躍されている選手ならではの貴重な話を聞くことができました。
- ・スペシャル卓球教室を開催後、各児童センターでは卓球目的の利用者が増えました。子どもたちが以前より積極的に卓球をするようになったり、年少の子の面倒を見たり、自分の夢を語るようになるなど、心の面でも大きな成長・変化がありました。
- ・初回の「スペシャル卓球教室」で講師より、子どもたちの挨拶や発言の声が小さいとご指摘をいただきました。職員も含め元気よく会話をするように努めたところ、プレイも活気にあふれ、熱心に講師の話を聴くようになりました。教室運営の細かい注意点を次回の館に申し送りすることで、職員の運営力、折衝力なども高めることができました。

課題・今後の展開

- ・現役選手である講師は、コロナ禍で公式試合がほとんど中止になっていたため、毎週土曜日13週に渡って指導をしていただきましたが、今後試合が再開されるとスケジュール調整が難しくなると思われます。
- ・令和2年度は、「スペシャル卓球教室」は13館で実施できましたが、3月の「ふれあい卓球大会」は緊急事態宣言のため中止としました。大規模な行事を行う際は、感染症予防や安全管理のガイドラインやマニュアルを作成し、常に見直しをしていく必要があると思います。